

永楽通宝で独自の貨幣体系も

永楽帝が鑄造した永楽通宝は、北条氏ら東国の戦国大名が基準通貨として独自の貨幣体系を成立させた。永楽通宝には通用銭を模った加工した粗悪な鑄銭(びたせん)も多い。原料分析、成分分析などにより、多種多様な中世渡来銭の研究には総合的な視野がいる。



石崎建治助教

中世渡来銭

中世日本の国家は貨幣を発行せず、主に中国から入手した渡来銭を流通させていた。中でも

放射性炭素の壊変速度を利用

後関係を示す相対年代、今から何年前かを示す数値年代がある。数値年代でも放射壊変速度の一定性を用いた放射性炭素C14法は、幅広い分野で利用され、特に暦年代への較正法の確立により、文書記録や気候変動などの記録と直接比較できるようになった。



佐々木圭一助教

年代測定

「年代」とは、地球科学や考古学などにおいて現象や出来事に時間軸を与える要素であり、前

市街地に精神的充足の場を

町人の遊びが参考になる。梅田日記に記された外出行動を目的や訪問先別に分類すると、寺社への参詣やそれに伴う見物、飲食が多く、寺社が遊びの核になっていた。中心市街地の活性化には伝統芸能や教養など、精神的な充足を得られる新たな核が必要である。



馬場先恵子助教

梅田日記

空洞化の解消など中心市街地のこれからのまちづくりを考えるうえで、近世の金沢城下町の

描写や顔料で制作年代を解明

寺や浄土を描いた七種類の曼陀羅の一つ。本学に寄贈された一点が保存されている。顕微鏡による拡大、赤外線やX線を使った分析によって、彩色や、汚れて不鮮明だった細部の描写、彩色顔料などが判明した。制作年代は南北朝から室町時代前半ごろと推定される。



中村晋也講師

春日鹿曼陀羅

は、春日神社と興福寺を主題とした神仏習合の垂迹(すいじやく)美術で、社

文化財学科公開講座 4教員がリレー講義

金沢学院大学美術文化学部文化財学科の公開講座は十月七日、北國新聞会館内の金沢学院サテライト教室で開かれ、四教員が「文化財研究へのいざない」のテーマでリレー講義を行いました。受講者は年代測定、曼陀羅(まんだら)の科学的分析、中世渡来銭、まちづくりについての講義を聴き、多彩な分野における文化財研究の一端に触れました。講義の要点は次の通りです。

小説の中に訴えるものを**赤川次郎氏迎え文学部特別講義****作家30年目で「初心」新たに**

金沢学院大学文学部の特別講義は十月四日、四号館講義室で行われ、作家で本学客員教授の赤川次郎氏が「30年めの初心」と題して講演しました。

赤川氏は、推理小説や名作を読みふけた少年時代、作家を目指したサラリーマン時代を振り返り、女性が主導権を握る作品構成の意図を解説しました。

さらに経済的不満が弱者に向きかねない格差社会の怖さや、子供を蝕む「情報偏食」の問題も指摘し、「これから十年は、世の中のためになる何かを、小説の中に



特別講義を行う赤川次郎氏。4号館講義室

新教育理念「創造」を強調**東高校が中高連絡会**

金沢学院東高校の中高連絡会と学習塾向け説明会は九月下旬から県内五会場で行われました。

このうち十月三日の金沢連絡会「写真上」には、河北、羽咋地区を含む三十六中学校の校長・進路担当教員が出席しました。石田毅士郎校長が「教育の再生が叫ばれる中、本校は新教育理念「創造」の実践による新しい校風づくりを目指している」と強調しました。遠田敬教頭が入試改革や新校舎の建設などを説明しました。



発行・広報室

県デザイン展会場にて授業

金沢学院短期大学生活デザイン学科カラー&ビジュアルクラスの一年生は九月二十九日、石川県庁で、石川県デザイン展の見学授業を行いました。

短大二年生や他校の学生、生徒が出品した作品を鑑賞しました。

ステッセルのピアノ見学

小矢部市ことぶき大学講座歴史学習会の一行五十人が九月二十九日、本学所蔵のステッセルのピアノを見学に訪れました。平木孝志短期大学教授「写真上」が歴史的経緯と美術品としての価値について解説しました。



大学生2人が9月卒業

金沢学院大学の九月卒業証書授与「写真上」は九月二十九日行われ、石田寛人学長から経営情報学部産業情報学科と美術文化学部文化財学科の卒業生二人に卒業証書を手渡しました。